

平成25年度  
第4回市政モニターアンケート  
「消防・市民防災について」

北九州市市民文化スポーツ局広聴課



## 目 次

I 調査の概要	1
II 市政モニターの構成	1
III 調査結果	2
(1) 災害全般について	2
(2) 防災について	3
(3) 火災について	7
(4) 救急について	10
(5) 消防行政について	15
IV 全体考察	17

## I 調査の概要

- (1) 調査対象者 市政モニター 150人  
 (2) 回答者数 132人(回答率88%)  
 (3) 調査実施日 平成25年8月7日(水)～平成25年8月30日(金)  
 (4) 実施方法 調査票による郵送及びインターネット調査  
 (5) 調査実施課 市民文化スポーツ局広聴課 Tel582-2527  
 調査依頼課 消防局人事課 Tel582-3805

## II 市政モニターの構成

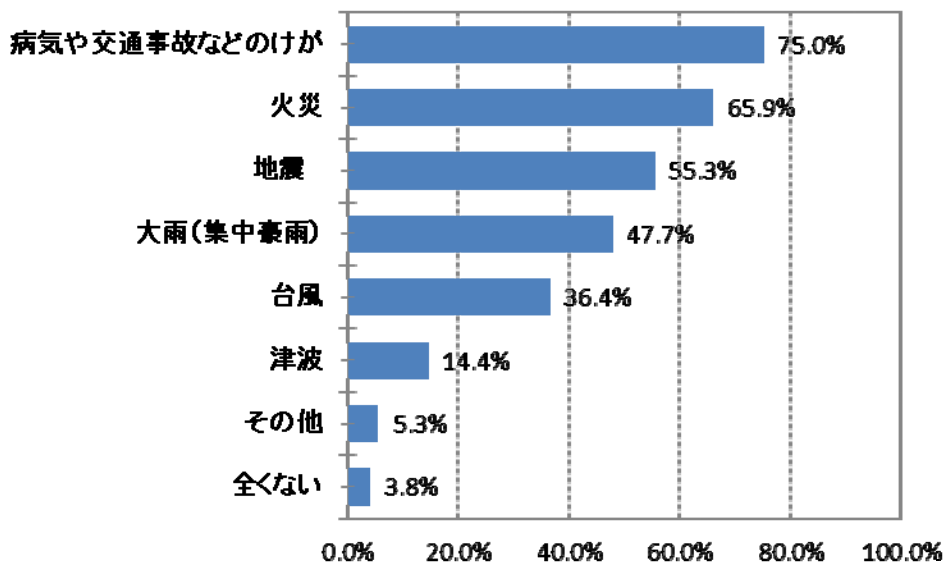
区分	合計	男性	女性	区分	合計	男性	女性
全体	150 (100.0%)	61 (40.7%)	89 (59.3%)	区別			
				門司区	16 (10.7%)	6 (4.0%)	10 (6.7%)
20歳代	12 (8.0%)	5 (3.3%)	7 (4.7%)	小倉北区	28 (18.7%)	11 (7.3%)	17 (11.3%)
30歳代	42 (28.0%)	8 (5.3%)	34 (22.7%)	小倉南区	32 (21.3%)	14 (9.3%)	18 (12.0%)
40歳代	22 (14.7%)	3 (2.0%)	19 (12.7%)	若松区	13 (8.7%)	6 (4.0%)	7 (4.7%)
50歳代	19 (12.7%)	10 (6.7%)	9 (6.0%)	八幡東区	12 (8.0%)	6 (4.0%)	6 (4.0%)
60歳代	39 (26.0%)	21 (14.0%)	18 (12.0%)	八幡西区	40 (26.7%)	14 (9.3%)	26 (17.3%)
70歳以上	16 (10.7%)	14 (9.3%)	2 (1.3%)	戸畑区	9 (6.0%)	4 (2.7%)	5 (3.3%)

※ 数値の単位未満は四捨五入を原則としましたので、総数と内容の合計は一致しない場合があります。

### Ⅲ 調査結果

#### 【災害全般について】

問1 あなたは、日ごろから不安に感じている災害等がありますか。(複数回答可)



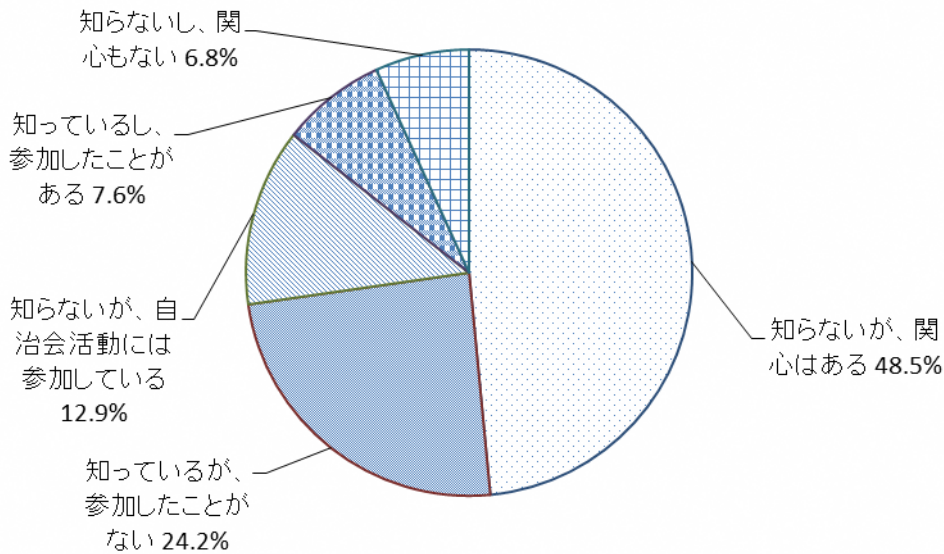
	回答者数	病気や交通事故などのけが	火災	大雨(集中豪雨)	台風	地震	津波	全くない	その他	
全体	132	75.0%	65.9%	47.7%	36.4%	55.3%	14.4%	3.8%	5.3%	
性別	男性	53	64.2%	58.5%	37.7%	37.7%	39.6%	11.3%	5.7%	7.5%
	女性	79	82.3%	70.9%	54.4%	35.4%	65.8%	16.5%	2.5%	3.8%
年代別	20歳代	9	66.7%	77.8%	55.6%	22.2%	44.4%	11.1%	11.1%	0.0%
	30歳代	33	78.8%	69.7%	60.6%	39.4%	66.7%	24.2%	0.0%	3.0%
	40歳代	20	80.0%	55.0%	50.0%	30.0%	60.0%	20.0%	0.0%	5.0%
	50歳代	18	72.2%	66.7%	38.9%	33.3%	55.6%	5.6%	5.6%	5.6%
	60歳代	38	68.4%	55.3%	44.7%	42.1%	52.6%	10.5%	7.9%	7.9%
	70歳以上	14	85.7%	92.9%	28.6%	35.7%	35.7%	7.1%	0.0%	7.1%
行政区別	門司区	16	62.5%	81.3%	56.3%	43.8%	56.3%	25.0%	0.0%	12.5%
	小倉北区	25	72.0%	60.0%	52.0%	36.0%	64.0%	20.0%	4.0%	8.0%
	小倉南区	28	82.1%	64.3%	57.1%	46.4%	53.6%	10.7%	3.6%	7.1%
	若松区	11	72.7%	81.8%	45.5%	45.5%	54.5%	9.1%	9.1%	0.0%
	八幡東区	11	81.8%	63.6%	45.5%	18.2%	63.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	32	75.0%	56.3%	34.4%	25.0%	46.9%	12.5%	3.1%	3.1%
	戸畑区	9	77.8%	77.8%	44.4%	44.4%	55.6%	22.2%	11.1%	0.0%

日ごろから不安に感じている災害等について、「病気や交通事故などのけが」(75.0%)が最も多く、次いで「火災」(65.9%)となっており、ほとんどの回答者(96.2%)が何らかの災害に不安を感じている。

年代別では、70歳以上の9割以上の方が「火災」について不安を抱えている。

【防災について】

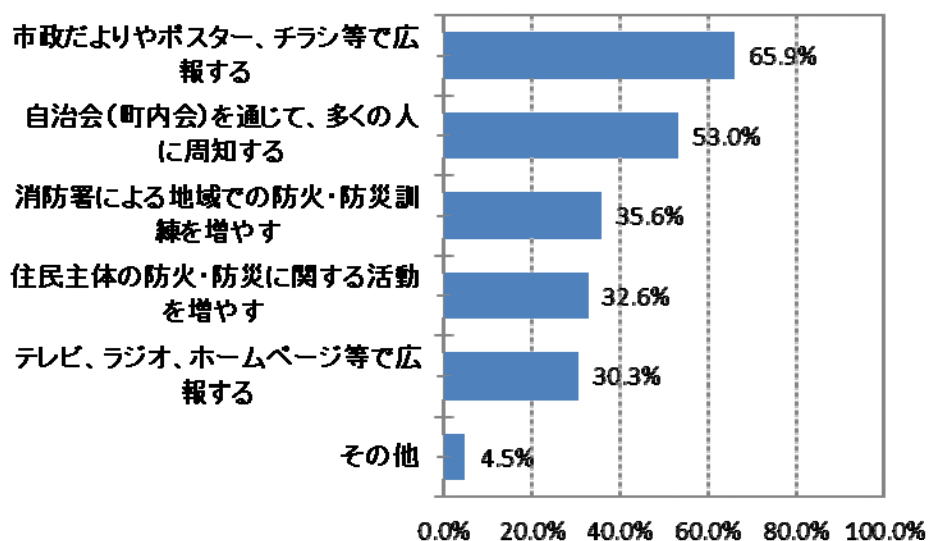
問2 あなたは、小学校区または地区単位の地域住民によって、自治会活動のひとつとして運営されている「市民防災会」という自主防災組織を知っていますか。



		回答者数	知っているし、参加したことがある	知っているが、参加したことがない	知らないが、自治会活動には参加している	知らないが、関心はある	知らないし、関心もない
全体		132	7.6%	24.2%	12.9%	48.5%	6.8%
性別	男性	53	7.5%	28.3%	5.7%	47.2%	11.3%
	女性	79	7.6%	21.5%	17.7%	49.4%	3.8%
年代別	20歳代	9	0.0%	11.1%	11.1%	55.6%	22.2%
	30歳代	33	3.0%	24.2%	9.1%	60.6%	3.0%
	40歳代	20	5.0%	15.0%	15.0%	50.0%	15.0%
	50歳代	18	5.6%	22.2%	22.2%	44.4%	5.6%
	60歳代	38	10.5%	34.2%	13.2%	36.8%	5.3%
	70歳以上	14	21.4%	21.4%	7.1%	50.0%	0.0%
行政区別	門司区	16	6.3%	25.0%	0.0%	62.5%	6.3%
	小倉北区	25	0.0%	20.0%	12.0%	64.0%	4.0%
	小倉南区	28	3.6%	28.6%	14.3%	46.4%	7.1%
	若松区	11	27.3%	18.2%	27.3%	27.3%	0.0%
	八幡東区	11	9.1%	45.5%	9.1%	27.3%	9.1%
	八幡西区	32	12.5%	18.8%	15.6%	46.9%	6.3%
	戸畑区	9	0.0%	22.2%	11.1%	44.4%	22.2%

小学校区または地区単位の地域住民によって、自治会活動のひとつとして運営されている「市民防災会」については、「知らないが、関心はある」(48.5%)が最も多かった。一方、「知っているが、参加したことがない」(24.2%)と「知っているし、参加したことがある」(7.6%)を合わせると31.8%となり、市民防災会の認知度は約3割となった。

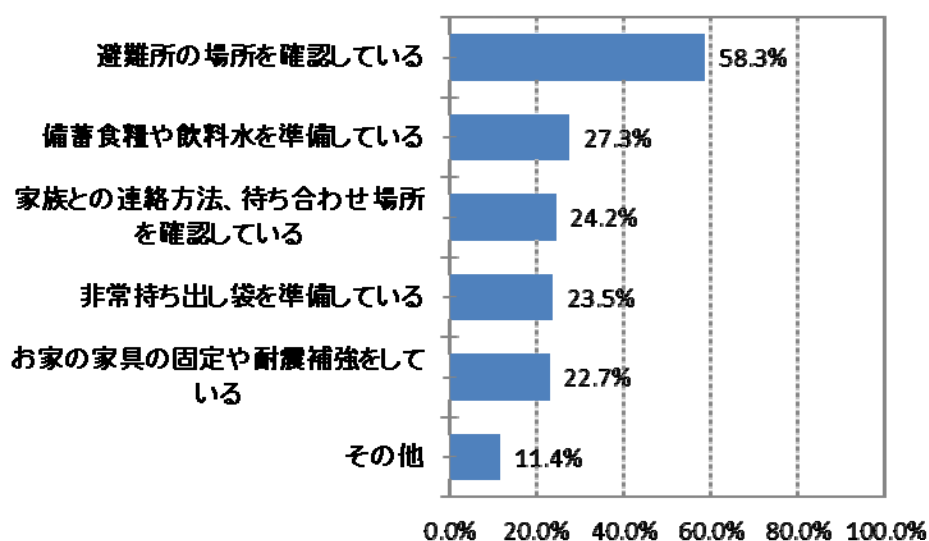
問3 「市民防災会」をより多くの皆さんに知ってもらい、活動に参加してもらうためには、どのような方策が有効だと思いますか。（複数回答可）



		回答者数	住民主体の防火・防災に関する活動を増やす	消防署による地域での防火・防災訓練を増やす	自治会(町内会)を通じて、多くの人に周知する	市政だよりやポスター、チラシ等で広報する	テレビ、ラジオ、ホームページ等で広報する	その他
全体		132	32.6%	35.6%	53.0%	65.9%	30.3%	4.5%
性別	男性	53	39.6%	45.3%	47.2%	64.2%	32.1%	9.4%
	女性	79	27.8%	29.1%	57.0%	67.1%	29.1%	1.3%
年代別	20歳代	9	33.3%	11.1%	22.2%	55.6%	22.2%	11.1%
	30歳代	33	33.3%	36.4%	45.5%	75.8%	33.3%	6.1%
	40歳代	20	20.0%	40.0%	30.0%	65.0%	30.0%	0.0%
	50歳代	18	16.7%	33.3%	61.1%	55.6%	16.7%	0.0%
	60歳代	38	36.8%	31.6%	68.4%	68.4%	36.8%	5.3%
	70歳以上	14	57.1%	57.1%	71.4%	57.1%	28.6%	7.1%
行政区別	門司区	16	37.5%	37.5%	62.5%	62.5%	50.0%	6.3%
	小倉北区	25	48.0%	44.0%	44.0%	56.0%	32.0%	4.0%
	小倉南区	28	25.0%	35.7%	53.6%	75.0%	21.4%	7.1%
	若松区	11	27.3%	36.4%	63.6%	72.7%	27.3%	0.0%
	八幡東区	11	18.2%	9.1%	45.5%	81.8%	45.5%	0.0%
	八幡西区	32	28.1%	37.5%	50.0%	59.4%	21.9%	6.3%
	戸畑区	9	44.4%	33.3%	66.7%	66.7%	33.3%	0.0%

「市民防災会」をより多くの皆さんに知ってもらい、活動に参加してもらうためには、どのような方策が有効だと思うかについては、紙媒体である「市政だよりやポスター、チラシ等で広報する」(65.9%)が最も多かった。一方、電子媒体である「テレビ等で広報する」(30.3%)や、活動や訓練を増やすという意見は、全体の3分の1程度であった。

問4 あなたは、大災害の発生に対して日頃から準備していますか。(複数回答可)



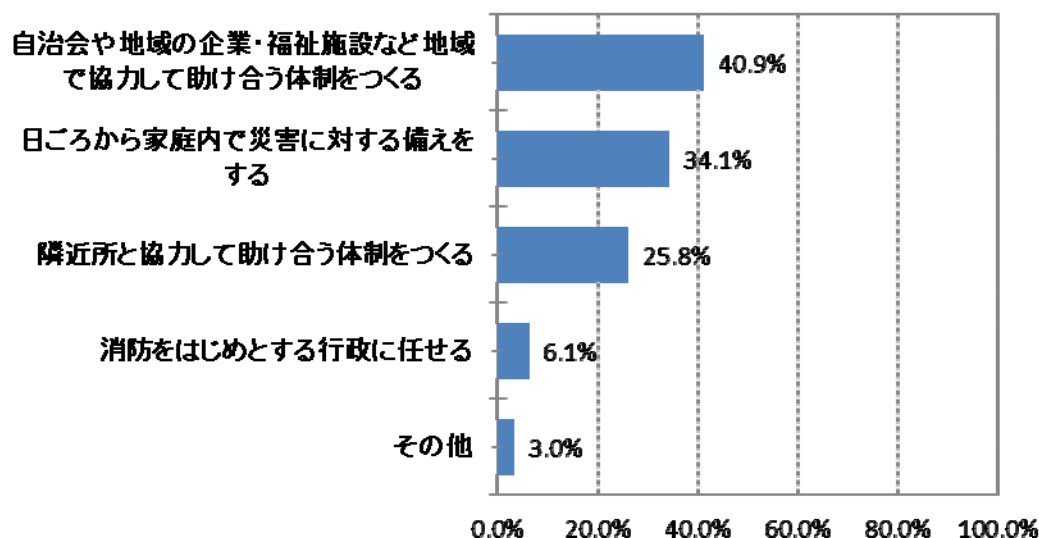
		回答者数	非常持ち出し袋を準備している	備蓄食糧や飲料水を準備している	お家の家具の固定や耐震補強をしている	避難所の場所を確認している	家族との連絡方法、待ち合わせ場所を確認している	その他
全体		132	23.5%	27.3%	22.7%	58.3%	24.2%	11.4%
性別	男性	53	24.5%	26.4%	24.5%	45.3%	17.0%	17.0%
	女性	79	22.8%	27.8%	21.5%	67.1%	29.1%	7.6%
年代別	20歳代	9	11.1%	22.2%	11.1%	22.2%	0.0%	33.3%
	30歳代	33	27.3%	21.2%	24.2%	57.6%	30.3%	18.2%
	40歳代	20	5.0%	10.0%	20.0%	70.0%	50.0%	5.0%
	50歳代	18	22.2%	33.3%	5.6%	44.4%	16.7%	5.6%
	60歳代	38	26.3%	39.5%	28.9%	63.2%	15.8%	5.3%
	70歳以上	14	42.9%	28.6%	35.7%	71.4%	21.4%	14.3%
行政区別	門司区	16	31.3%	18.8%	25.0%	75.0%	12.5%	18.8%
	小倉北区	25	20.0%	32.0%	20.0%	52.0%	16.0%	16.0%
	小倉南区	28	25.0%	32.1%	35.7%	50.0%	21.4%	7.1%
	若松区	11	45.5%	27.3%	18.2%	63.6%	54.5%	9.1%
	八幡東区	11	18.2%	27.3%	18.2%	27.3%	27.3%	18.2%
	八幡西区	32	21.9%	28.1%	15.6%	68.8%	31.3%	6.3%
	戸畑区	9	0.0%	11.1%	22.2%	66.7%	11.1%	11.1%

大災害の発生に対して日頃から準備しているかについては、「避難所の場所を確認している」(58.3%)が最も多く、他、家庭内で災害対策を実施しているのは3割に満たない結果となった。

年代別では、20歳代で災害対策をしている割合が低かった。



問5 大災害の発生に備えて、地域の災害対応力を高めるためには、どのような方法が有効だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

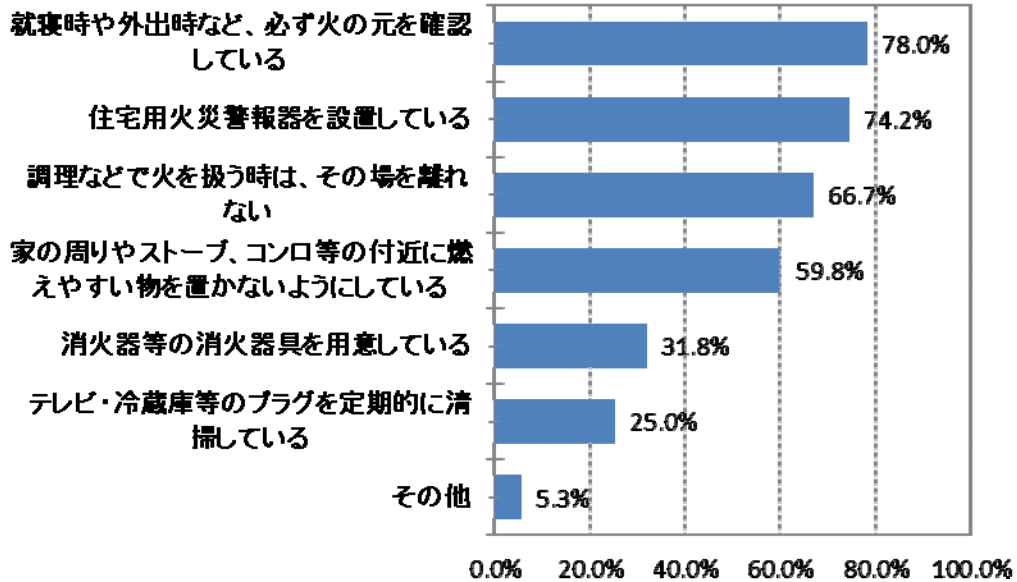


		回答者数	消防をはじめとする行政に任せる	日ごろから家庭内で災害に対する備えをする	隣近所と協力して助け合う体制をつくる	自治会や地域の企業・福祉施設など地域で協力して助け合う体制をつくる	その他
全体		132	6.1%	34.1%	25.8%	40.9%	3.0%
性別	男性	53	7.5%	30.2%	18.9%	41.5%	5.7%
	女性	79	5.1%	36.7%	30.4%	40.5%	1.3%
年代別	20歳代	9	0.0%	55.6%	33.3%	22.2%	0.0%
	30歳代	33	9.1%	39.4%	21.2%	42.4%	6.1%
	40歳代	20	10.0%	40.0%	30.0%	30.0%	0.0%
	50歳代	18	11.1%	44.4%	5.6%	38.9%	0.0%
	60歳代	38	2.6%	26.3%	31.6%	42.1%	2.6%
	70歳以上	14	0.0%	7.1%	35.7%	64.3%	7.1%
行政区別	門司区	16	18.8%	6.3%	37.5%	43.8%	0.0%
	小倉北区	25	4.0%	36.0%	12.0%	40.0%	8.0%
	小倉南区	28	3.6%	39.3%	28.6%	39.3%	7.1%
	若松区	11	0.0%	36.4%	27.3%	45.5%	0.0%
	八幡東区	11	9.1%	72.7%	18.2%	18.2%	0.0%
	八幡西区	32	3.1%	34.4%	28.1%	46.9%	0.0%
	戸畑区	9	11.1%	11.1%	33.3%	44.4%	0.0%

大災害の発生に備えて、地域の災害対応力を高めるためには、どのような方法が有効だと思うかについては、「自治会や地域の企業・福祉施設など地域で協力して助け合う体制をつくる」(40.9%)が最も多く、次いで「日ごろから家庭内で災害に対する備えをする」(34.1%)となっている。

【火災について】

問6 あなたは、火災に対する備えをしていますか。(複数回答可)

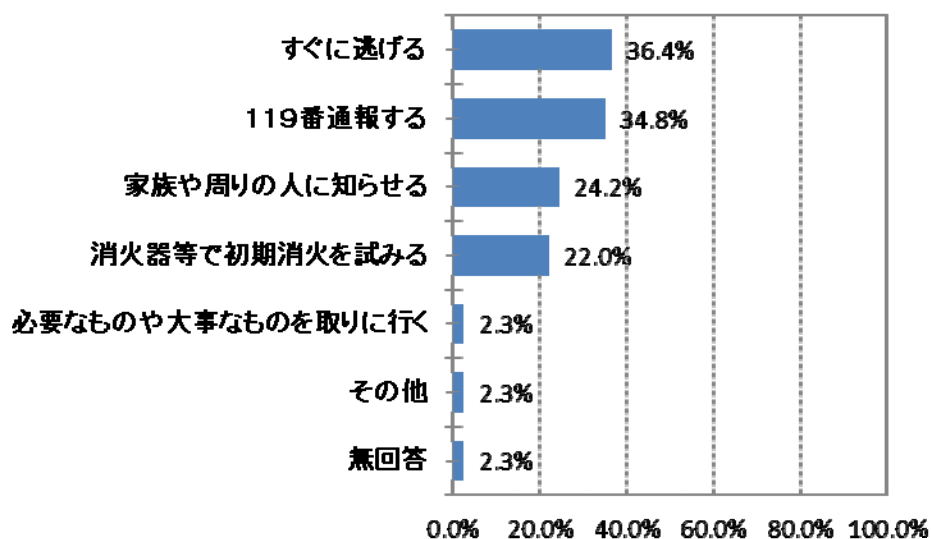


		回答者数	住宅用火災警報器を設置している	調理などで火を扱う時は、その場を離れない	就寝時や外出時など、必ず火の元を確認している	消火器等の消火器具を用意している	家の周りやストーブ、コンロ等の付近に燃えやすい物を置かないようにしている	テレビ・冷蔵庫等のプラグを定期的に清掃している	その他
全体		132	74.2%	66.7%	78.0%	31.8%	59.8%	25.0%	5.3%
性別	男性	53	79.2%	64.2%	79.2%	32.1%	47.2%	28.3%	5.7%
	女性	79	70.9%	68.4%	77.2%	31.6%	68.4%	22.8%	5.1%
年代別	20歳代	9	33.3%	44.4%	66.7%	22.2%	44.4%	11.1%	0.0%
	30歳代	33	72.7%	72.7%	75.8%	24.2%	63.6%	18.2%	9.1%
	40歳代	20	55.0%	70.0%	75.0%	20.0%	50.0%	20.0%	5.0%
	50歳代	18	88.9%	50.0%	61.1%	33.3%	50.0%	27.8%	0.0%
	60歳代	38	78.9%	76.3%	94.7%	44.7%	65.8%	26.3%	5.3%
	70歳以上	14	100.0%	57.1%	71.4%	35.7%	71.4%	50.0%	7.1%
行政区別	門司区	16	87.5%	62.5%	81.3%	43.8%	50.0%	12.5%	6.3%
	小倉北区	25	84.0%	80.0%	72.0%	24.0%	64.0%	16.0%	4.0%
	小倉南区	28	67.9%	64.3%	82.1%	32.1%	53.6%	25.0%	7.1%
	若松区	11	45.5%	63.6%	72.7%	36.4%	81.8%	27.3%	0.0%
	八幡東区	11	72.7%	63.6%	72.7%	45.5%	54.5%	27.3%	9.1%
	八幡西区	32	75.0%	62.5%	81.3%	31.3%	62.5%	37.5%	3.1%
	戸畑区	9	77.8%	66.7%	77.8%	11.1%	55.6%	22.2%	11.1%

火災に対する備えをしているかについては、「就寝時や外出時など、必ず火の元を確認している」(78.0%)が最も多く、次いで「住宅用火災警報器を設置している」(74.2%)となった。

年代別では、50歳以上に比べ20～40歳代の「住宅用火災警報器設置率」が低かった。

問7 自宅で火災が発生し、煙が充満し始めているとき、あなたはまずどのような行動を取りますか。次の中から1つ選んでください。

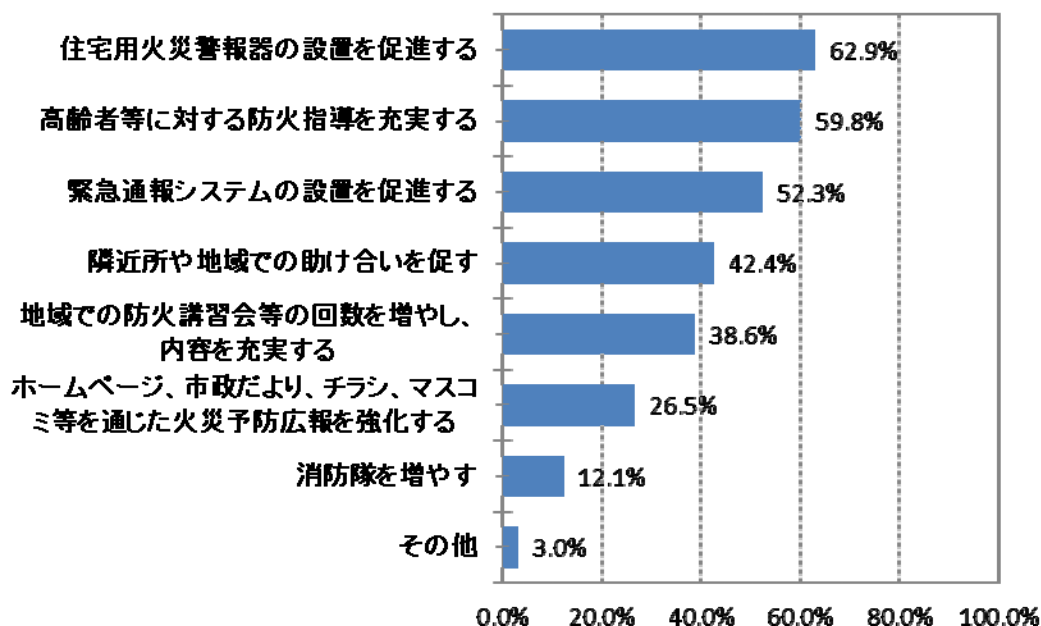


		回答者数	すぐに逃げる	家族や周りの人に知らせる	119番通報する	消火器等で初期消火を試みる	必要なものや大事なものを取りに行く	その他	無回答
全体		132	36.4%	24.2%	34.8%	22.0%	2.3%	2.3%	2.3%
性別	男性	53	34.0%	20.8%	37.7%	34.0%	1.9%	1.9%	0.0%
	女性	79	38.0%	26.6%	32.9%	13.9%	2.5%	2.5%	3.8%
年代別	20歳代	9	44.4%	22.2%	33.3%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%
	30歳代	33	27.3%	33.3%	24.2%	18.2%	0.0%	6.1%	3.0%
	40歳代	20	55.0%	25.0%	40.0%	10.0%	5.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	18	27.8%	22.2%	22.2%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	38	39.5%	18.4%	50.0%	18.4%	0.0%	2.6%	5.3%
	70歳以上	14	28.6%	21.4%	28.6%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%
行政区別	門司区	16	43.8%	18.8%	43.8%	18.8%	0.0%	6.3%	0.0%
	小倉北区	25	44.0%	28.0%	28.0%	16.0%	0.0%	4.0%	0.0%
	小倉南区	28	39.3%	21.4%	42.9%	17.9%	3.6%	3.6%	3.6%
	若松区	11	18.2%	18.2%	9.1%	54.5%	9.1%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11	27.3%	45.5%	9.1%	18.2%	9.1%	0.0%	9.1%
	八幡西区	32	40.6%	18.8%	50.0%	21.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸畑区	9	11.1%	33.3%	22.2%	22.2%	0.0%	0.0%	11.1%

自宅で火災が発生し、煙が充満し始めているとき、まずどのような行動を取るかについては、「すぐに逃げる」(36.4%)が最も多く、次いで「119番通報する」(34.8%)となっている。

年代別では、70歳以上で「消火器等で初期消火を試みる」(57.1%)が約6割を占めており、30歳代では「家族や周りの人に知らせる」(33.3%)の割合が高かった。

問8 火災による死者を防ぐため、どのような方策が有効だと思いますか。(複数回答可)



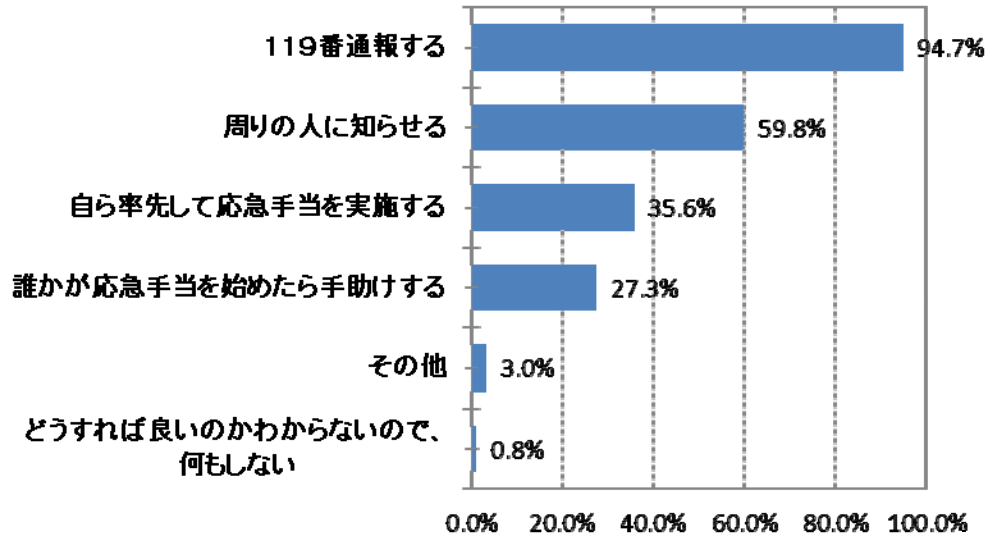
	回答者数	消防隊を増やす	住宅用火災警報器の設置を促進する	ホームページ、市政だより、チラシ、マスコミ等を通じた火災予防広報を強化する	地域での防火講習会等の回数を増やし、内容を充実する	高齢者等に対する防火指導を充実する	緊急通報システムの設置を促進する	隣近所や地域での助け合いを促す	その他	
全体	132	12.1%	62.9%	26.5%	38.6%	59.8%	52.3%	42.4%	3.0%	
性別	男性	53	11.3%	56.6%	32.1%	45.3%	66.0%	49.1%	41.5%	1.9%
	女性	79	12.7%	67.1%	22.8%	34.2%	55.7%	54.4%	43.0%	3.8%
年代別	20歳代	9	11.1%	55.6%	11.1%	33.3%	55.6%	22.2%	44.4%	11.1%
	30歳代	33	18.2%	75.8%	30.3%	33.3%	60.6%	54.5%	36.4%	6.1%
	40歳代	20	15.0%	60.0%	20.0%	20.0%	50.0%	45.0%	35.0%	0.0%
	50歳代	18	16.7%	72.2%	16.7%	33.3%	61.1%	44.4%	44.4%	0.0%
	60歳代	38	5.3%	50.0%	34.2%	47.4%	63.2%	63.2%	42.1%	2.6%
	70歳以上	14	7.1%	64.3%	28.6%	64.3%	64.3%	57.1%	64.3%	0.0%
行政区別	門司区	16	12.5%	62.5%	25.0%	56.3%	62.5%	62.5%	43.8%	6.3%
	小倉北区	25	12.0%	60.0%	24.0%	32.0%	56.0%	52.0%	44.0%	4.0%
	小倉南区	28	17.9%	60.7%	28.6%	46.4%	53.6%	42.9%	42.9%	3.6%
	若松区	11	0.0%	72.7%	45.5%	36.4%	45.5%	27.3%	45.5%	0.0%
	八幡東区	11	18.2%	63.6%	36.4%	36.4%	63.6%	54.5%	27.3%	9.1%
	八幡西区	32	6.3%	65.6%	18.8%	28.1%	68.8%	59.4%	43.8%	0.0%
	戸畑区	9	22.2%	55.6%	22.2%	44.4%	66.7%	66.7%	44.4%	0.0%

火災による死者を防ぐため、どのような方策が有効だと思うかについては、「住宅用火災警報器の設置を促進する」(62.9%)が最も多く、次いで「高齢者等に対する防火指導を充実する」(59.8%)となっている。

また、各種広報媒体を使用した火災予防広報(26.5%)の割合は低かった。

【救急について】

問9 あなたの身の回りで急病人やけが人が発生した場合、あなたはどうしますか。  
(複数回答可)



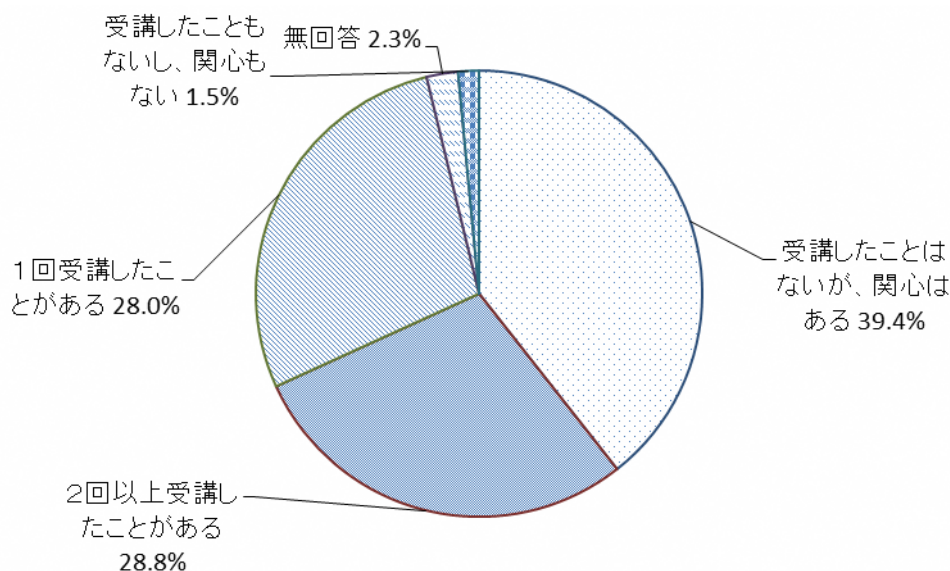
		回答者数	周りの人に知らせる	119番通報する	自ら率先して応急手当を実施する	誰かが応急手当を始めたらず助けする	どうすれば良いのかわからないので、何もしない	その他
全体		132	59.8%	94.7%	35.6%	27.3%	0.8%	3.0%
性別	男性	53	52.8%	96.2%	47.2%	20.8%	1.9%	1.9%
	女性	79	64.6%	93.7%	27.8%	31.6%	0.0%	3.8%
年代別	20歳代	9	44.4%	88.9%	33.3%	44.4%	0.0%	0.0%
	30歳代	33	69.7%	97.0%	36.4%	24.2%	3.0%	6.1%
	40歳代	20	45.0%	95.0%	30.0%	30.0%	0.0%	5.0%
	50歳代	18	55.6%	100.0%	22.2%	11.1%	0.0%	0.0%
	60歳代	38	60.5%	92.1%	36.8%	31.6%	0.0%	2.6%
	70歳以上	14	71.4%	92.9%	57.1%	28.6%	0.0%	0.0%
行政区別	門司区	16	68.8%	100.0%	12.5%	43.8%	0.0%	12.5%
	小倉北区	25	56.0%	92.0%	40.0%	28.0%	4.0%	0.0%
	小倉南区	28	57.1%	96.4%	39.3%	17.9%	0.0%	3.6%
	若松区	11	63.6%	81.8%	54.5%	36.4%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11	63.6%	100.0%	36.4%	27.3%	0.0%	0.0%
	八幡西区	32	56.3%	96.9%	31.3%	21.9%	0.0%	0.0%
	戸畑区	9	66.7%	88.9%	44.4%	33.3%	0.0%	11.1%

身の回りで急病人やけが人が発生した場合、あなたはどうするかについては、「119番通報する」(94.7%)が9割以上を占めた。

また、「自ら率先して応急手当を実施する」(35.6%)と「誰かが応急手当を始めたらず助けする」(27.3%)を合わせると62.9%となり、6割以上の人が、何らかの形で応急手当を実施するという回答であった。

一方、何もしないという回答は0.8%であり、ほとんどの人(99.2%)は何らかの形で行動するという結果となった。

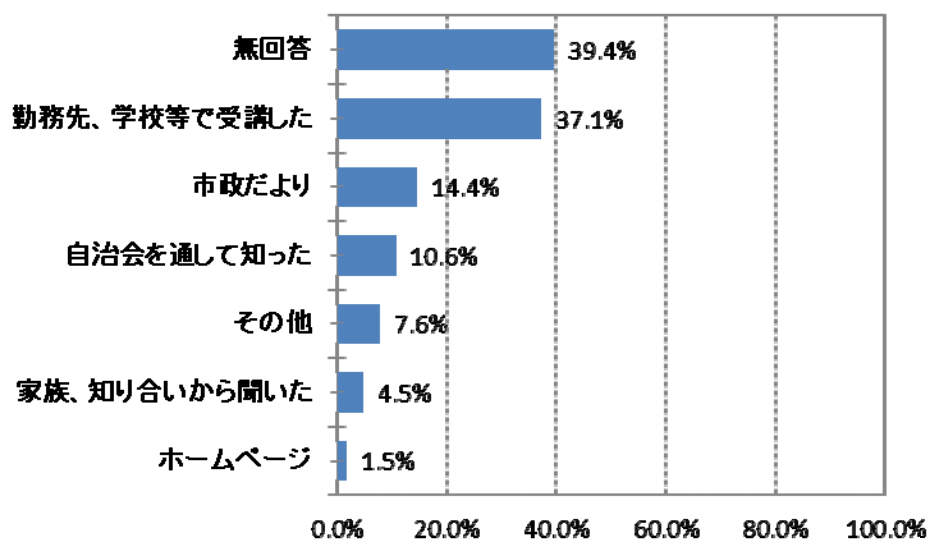
問10 あなたはこれまで応急手当講習を受講したことがありますか。



		回答者数	2回以上受講したことがある	1回受講したことがある	受講したことはないが、関心はある	受講したこともないし、関心もない	無回答
全体		132	28.8%	28.0%	39.4%	1.5%	2.3%
性別	男性	53	32.1%	22.6%	39.6%	3.8%	1.9%
	女性	79	26.6%	31.6%	39.2%	0.0%	2.5%
年代別	20歳代	9	22.2%	22.2%	44.4%	11.1%	0.0%
	30歳代	33	33.3%	27.3%	36.4%	0.0%	3.0%
	40歳代	20	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	18	16.7%	11.1%	61.1%	5.6%	5.6%
	60歳代	38	34.2%	28.9%	34.2%	0.0%	2.6%
	70歳以上	14	35.7%	35.7%	28.6%	0.0%	0.0%
行政区別	門司区	16	31.3%	31.3%	25.0%	6.3%	6.3%
	小倉北区	25	20.0%	16.0%	64.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	28	32.1%	25.0%	42.9%	0.0%	0.0%
	若松区	11	27.3%	36.4%	27.3%	0.0%	9.1%
	八幡東区	11	27.3%	36.4%	36.4%	0.0%	0.0%
	八幡西区	32	31.3%	34.4%	31.3%	3.1%	0.0%
	戸畑区	9	33.3%	22.2%	33.3%	0.0%	11.1%

これまで応急手当講習を受講したことがあるかについては、「2回以上受講したことがある」(28.8%)と「1回以上受講したことがある」(28.0%)を合わせると56.8%となり、6割近くの人が「受講したことがある」という回答であり、受講したことがない人も4割近くは「関心がある」という回答であった。

問 1 1 応急手当講習を受講したことがある方はどのようにして講習会を知りましたか。  
(複数回答可)



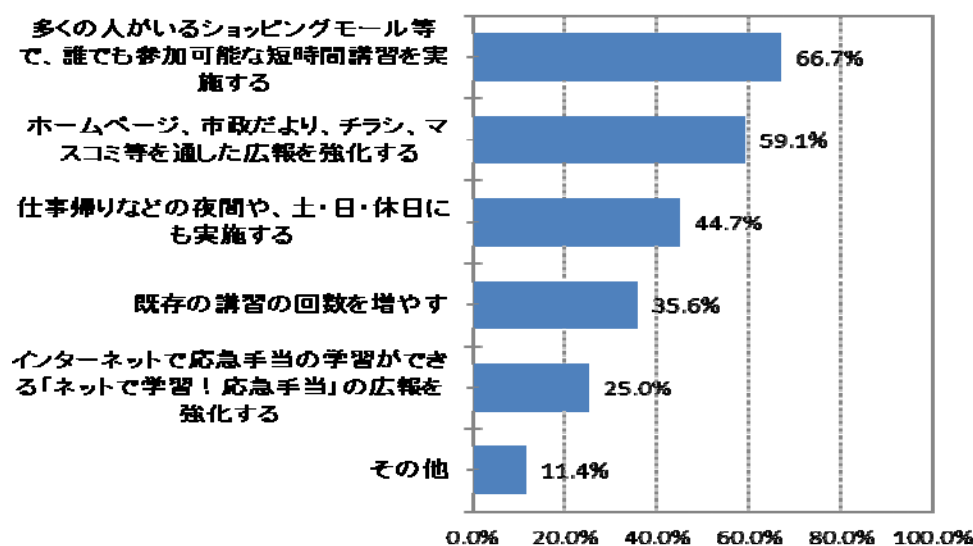
		回答者数	市政だより	ホームページ	家族、知り合いから聞いた	自治会を通して知った	勤務先、学校等で受講した	その他	無回答
全体		132	14.4%	1.5%	4.5%	10.6%	37.1%	7.6%	39.4%
性別	男性	53	18.9%	3.8%	0.0%	7.5%	37.7%	5.7%	41.5%
	女性	79	11.4%	0.0%	7.6%	12.7%	36.7%	8.9%	38.0%
年代別	20歳代	9	11.1%	0.0%	22.2%	11.1%	22.2%	11.1%	44.4%
	30歳代	33	3.0%	0.0%	6.1%	3.0%	45.5%	15.2%	36.4%
	40歳代	20	10.0%	0.0%	5.0%	10.0%	45.0%	5.0%	40.0%
	50歳代	18	5.6%	5.6%	5.6%	0.0%	22.2%	5.6%	66.7%
	60歳代	38	26.3%	2.6%	0.0%	18.4%	36.8%	5.3%	31.6%
	70歳以上	14	28.6%	0.0%	0.0%	21.4%	35.7%	0.0%	28.6%
行政区別	門司区	16	6.3%	0.0%	6.3%	6.3%	50.0%	12.5%	31.3%
	小倉北区	25	8.0%	4.0%	4.0%	4.0%	20.0%	4.0%	60.0%
	小倉南区	28	25.0%	0.0%	7.1%	7.1%	32.1%	7.1%	42.9%
	若松区	11	18.2%	0.0%	0.0%	18.2%	63.6%	0.0%	27.3%
	八幡東区	11	27.3%	9.1%	0.0%	9.1%	36.4%	27.3%	27.3%
	八幡西区	32	6.3%	0.0%	6.3%	21.9%	37.5%	3.1%	34.4%
	戸畑区	9	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	44.4%	11.1%	33.3%

応急手当講習を受講したことがある方はどのようにして講習会を知ったかについては、「勤務先、学校等で受講した」(37.1%)が全ての年代において最も多く、次いで「市政だより」(14.4%)となっている。

※「無回答」及び「その他」の一部が、受講したことがない人である。



問12 より多くの方に応急手当講習を受講してもらうためには、どのような方策が有効だと思いますか。(複数回答可)

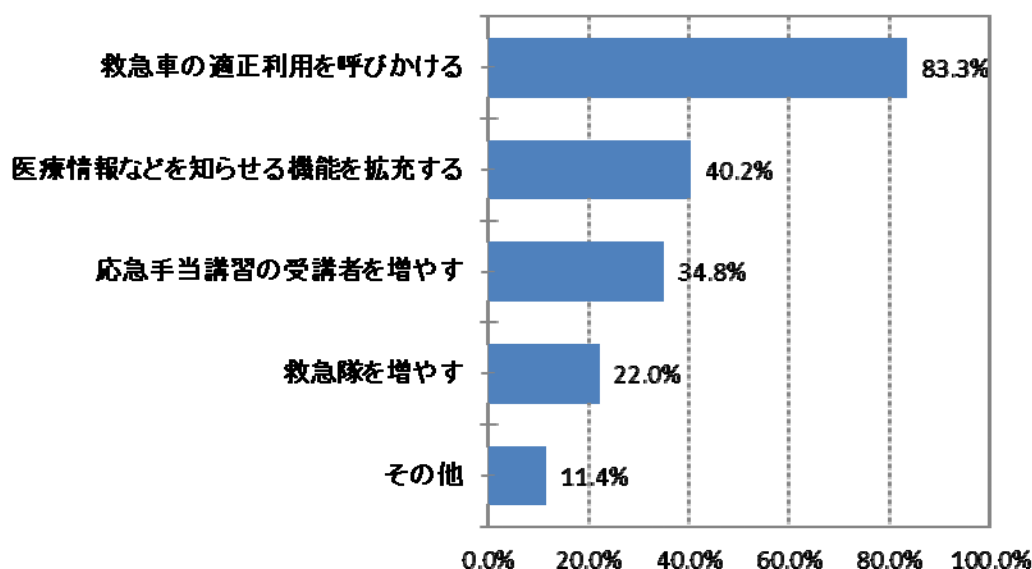


		回答者数	ホームページ、市政だより、チラシ、マスコミ等を通じた広報を強化する	既存の講習の回数を増やす	仕事帰りなどの夜間や、土・日・休日にも実施する	多くの人がいるショッピングモール等で、誰でも参加可能な短時間講習を実施する	インターネットで応急手当の学習ができる「ネットで学習！応急手当」の広報を強化する	その他
全体		132	59.1%	35.6%	44.7%	66.7%	25.0%	11.4%
性別	男性	53	62.3%	37.7%	47.2%	56.6%	32.1%	15.1%
	女性	79	57.0%	34.2%	43.0%	73.4%	20.3%	8.9%
年代別	20歳代	9	66.7%	33.3%	44.4%	66.7%	11.1%	11.1%
	30歳代	33	54.5%	39.4%	39.4%	69.7%	36.4%	18.2%
	40歳代	20	60.0%	30.0%	55.0%	75.0%	20.0%	10.0%
	50歳代	18	55.6%	33.3%	50.0%	77.8%	27.8%	5.6%
	60歳代	38	57.9%	34.2%	44.7%	60.5%	18.4%	7.9%
	70歳以上	14	71.4%	42.9%	35.7%	50.0%	28.6%	14.3%
行政区別	門司区	16	43.8%	43.8%	50.0%	75.0%	31.3%	12.5%
	小倉北区	25	52.0%	24.0%	40.0%	60.0%	20.0%	12.0%
	小倉南区	28	64.3%	35.7%	53.6%	67.9%	28.6%	10.7%
	若松区	11	90.9%	36.4%	36.4%	72.7%	18.2%	0.0%
	八幡東区	11	72.7%	27.3%	36.4%	63.6%	18.2%	18.2%
	八幡西区	32	56.3%	37.5%	40.6%	65.6%	21.9%	15.6%
	戸畑区	9	44.4%	55.6%	55.6%	66.7%	44.4%	0.0%

より多くの方に応急手当講習を受講してもらうためには、どのような方策が有効だと思うかについては、「多くの人がいるショッピングモール等で、誰でも参加可能な短時間講習を実施する」(66.7%)が最も多かった。



問13 平成24年中の救急出動件数は過去最多となっており、今後も増加が見込まれます。このような状況に対応するためにはどのような方策が有効だと思いますか。  
(複数回答可)

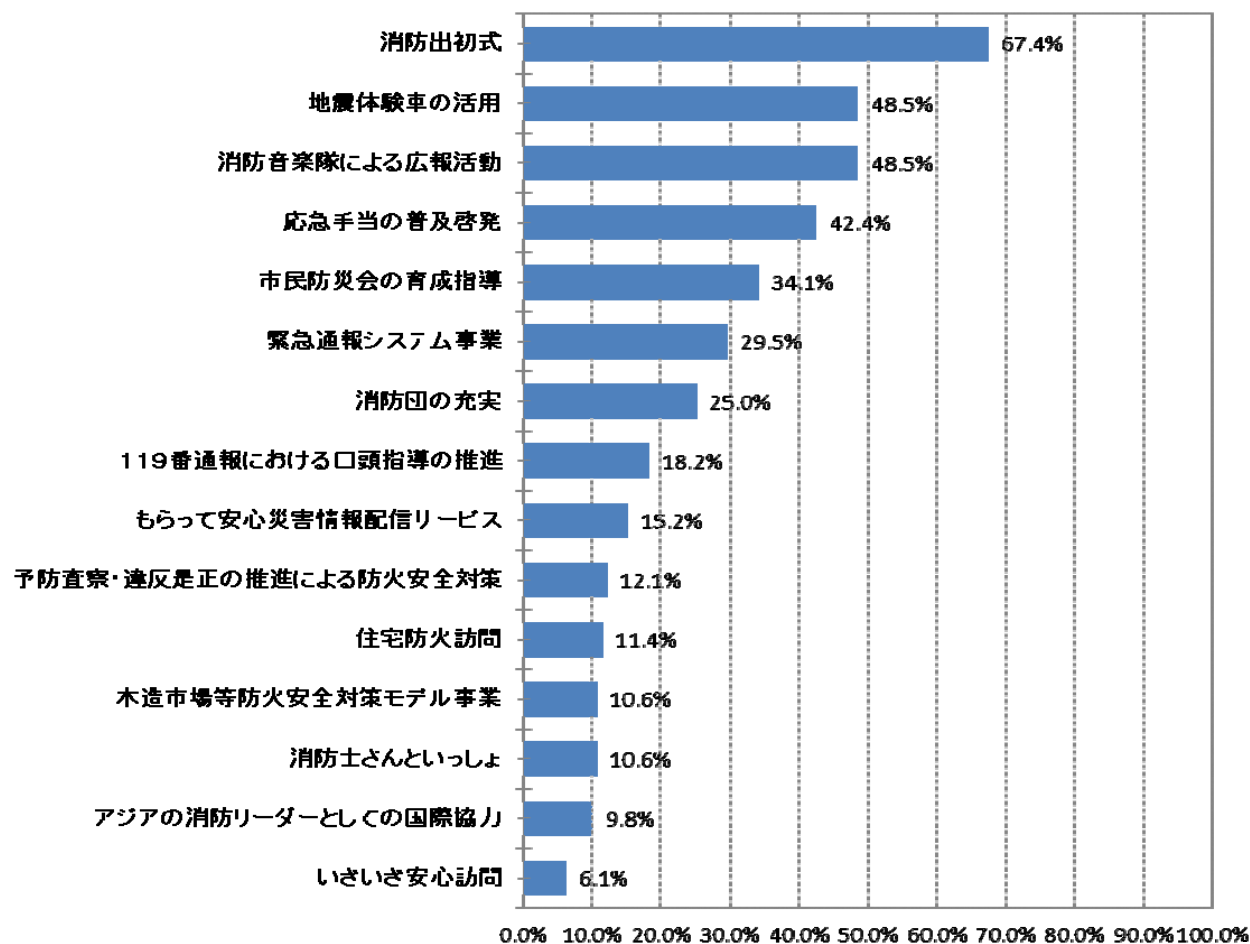


		回答者数	救急隊を増やす	救急車の適正利用を呼びかける	医療情報などを知らせる機能を拡充する	応急手当講習の受講者を増やす	その他
全体		132	22.0%	83.3%	40.2%	34.8%	11.4%
性別	男性	53	24.5%	83.0%	39.6%	30.2%	11.3%
	女性	79	20.3%	83.5%	40.5%	38.0%	11.4%
年代別	20歳代	9	22.2%	88.9%	11.1%	33.3%	11.1%
	30歳代	33	24.2%	66.7%	42.4%	36.4%	21.2%
	40歳代	20	30.0%	85.0%	45.0%	35.0%	10.0%
	50歳代	18	11.1%	100.0%	44.4%	27.8%	11.1%
	60歳代	38	23.7%	92.1%	44.7%	26.3%	2.6%
	70歳以上	14	14.3%	71.4%	21.4%	64.3%	14.3%
行政区別	門司区	16	37.5%	87.5%	31.3%	43.8%	12.5%
	小倉北区	25	24.0%	72.0%	24.0%	20.0%	24.0%
	小倉南区	28	17.9%	78.6%	50.0%	46.4%	10.7%
	若松区	11	36.4%	90.9%	45.5%	45.5%	0.0%
	八幡東区	11	9.1%	90.9%	63.6%	18.2%	9.1%
	八幡西区	32	12.5%	90.6%	37.5%	28.1%	9.4%
	戸畑区	9	33.3%	77.8%	44.4%	55.6%	0.0%

増加する救急出動に対応するためにはどのような方策が有効だと思うかについては、「救急車の適正利用を呼びかける」(83.3%)が最も多く、8割以上となっており、次いで「医療情報などを知らせる機能を拡充する」(40.2%)となっている。

【消防行政について】

問 1 4 消防局では、安全・安心なまちづくりのため、さまざまな事業に取り組んでいますが、次の中でご存知の事業がありますか。(複数回答可)



	回答者数	市民防災会の育成指導	地震体験車の活用	住宅防火訪問	木造市場等防火安全対策モデル事業	緊急通報システム事業	予防査察・違反是正の推進による防火安全対策	消防士さんといっしょ	いきいき安心訪問	消防団の充実	応急手当の普及啓発	119番通報における口頭指導の推進	消防音楽隊による広報活動	もらって安心災害情報配信サービス	アジアの消防リーダーとしての国際協力	消防出初式	
全体	132	34.1%	48.5%	11.4%	10.6%	29.5%	12.1%	10.6%	6.1%	25.0%	42.4%	18.2%	48.5%	15.2%	9.8%	67.4%	
性別	男性	53	35.8%	52.8%	17.0%	9.4%	30.2%	22.6%	3.8%	13.2%	28.3%	43.4%	18.9%	49.1%	18.9%	17.0%	66.0%
	女性	79	32.9%	45.6%	7.6%	11.4%	29.1%	5.1%	15.2%	1.3%	22.8%	41.8%	17.7%	48.1%	12.7%	5.1%	68.4%
年代別	20歳代	9	44.4%	44.4%	11.1%	11.1%	0.0%	11.1%	11.1%	0.0%	33.3%	33.3%	22.2%	22.2%	0.0%	22.2%	33.3%
	30歳代	33	27.3%	45.5%	6.1%	12.1%	21.2%	9.1%	12.1%	3.0%	18.2%	27.3%	18.2%	45.5%	21.2%	0.0%	57.6%
	40歳代	20	30.0%	45.0%	0.0%	5.0%	35.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	30.0%	15.0%	50.0%	20.0%	5.0%	75.0%
	50歳代	18	38.9%	66.7%	27.8%	5.6%	27.8%	11.1%	5.6%	5.6%	16.7%	50.0%	16.7%	44.4%	11.1%	5.6%	77.8%
	60歳代	38	39.5%	52.6%	7.9%	15.8%	34.2%	13.2%	7.9%	7.9%	26.3%	52.6%	21.1%	52.6%	13.2%	13.2%	76.3%
	70歳以上	14	28.6%	28.6%	28.6%	7.1%	50.0%	35.7%	0.0%	21.4%	42.9%	64.3%	14.3%	64.3%	14.3%	28.6%	64.3%
行政区別	門司区	16	12.5%	37.5%	6.3%	12.5%	43.8%	12.5%	6.3%	6.3%	31.3%	25.0%	37.5%	50.0%	6.3%	6.3%	93.8%
	小倉北区	25	36.0%	28.0%	8.0%	8.0%	32.0%	0.0%	8.0%	0.0%	16.0%	32.0%	12.0%	48.0%	20.0%	0.0%	60.0%
	小倉南区	28	35.7%	67.9%	10.7%	10.7%	28.6%	14.3%	14.3%	3.6%	32.1%	42.9%	21.4%	64.3%	17.9%	14.3%	64.3%
	若松区	11	36.4%	63.6%	9.1%	27.3%	36.4%	18.2%	9.1%	18.2%	36.4%	45.5%	9.1%	36.4%	27.3%	27.3%	45.5%
	八幡東区	11	63.6%	63.6%	9.1%	9.1%	18.2%	18.2%	0.0%	0.0%	36.4%	54.5%	18.2%	54.5%	9.1%	0.0%	63.6%
	八幡西区	32	34.4%	40.6%	15.6%	3.1%	21.9%	12.5%	12.5%	6.3%	18.8%	50.0%	12.5%	34.4%	12.5%	9.4%	68.8%
	戸畑区	9	22.2%	55.6%	22.2%	22.2%	33.3%	22.2%	22.2%	22.2%	11.1%	55.6%	22.2%	55.6%	11.1%	22.2%	77.8%

消防局が行っている事業を知っているかについては、「消防出初式」（67.4%）が最も多く、次いで「地震体験車の活用」と「消防音楽隊による広報活動」（48.5%）が5割近くの認知度となっている。

年代別では、20歳代で「市民防災会の育成指導」と「地震体験車の活用」（44.4%）が最も多かった。

#### IV 全体考察

東日本大震災以降、大規模災害に対する備えの必要性が指摘されている中、近年は市内においても救急出動件数の増加や木造市場火災の頻発など、市民の生活を脅かす様々な災害が発生している。

本市では、「災害などに強いまちづくり」を目指し、各種取り組みを実施しているところであるが、その実現に向け、また防火・防災に対する意見・要望を消防行政に反映させるため、5項目14問のアンケートを実施した。

##### 【災害全般について】

日ごろから不安に感じている災害等について、「地震」や「津波」よりも身近に発生している「病気や交通事故などのけが」や「火災」の回答が多かった。特に、70歳以上の9割以上が「火災」を不安に感じており、火災による死者の約6割を占める高齢者への対策について、より一層強化する必要がある。

##### 【防災について】

大規模災害の発生に備え、地域の災害対応力を高めるために有効な方法は、「自治会や地域の企業・福祉施設など地域で協力して助け合う体制をつくる」が最も多い回答であったが、災害の未然防止・被害軽減のため、地域ぐるみで自主的な防災活動を行う自主防災組織のひとつ「市民防災会」については、認知度が31.8%という結果であり、まずは存在自体の広報を更に強化する必要がある。アンケート結果から、知らない人でも関心はある人がほとんどであり、広報として最も有効な方策との結果となった市政だより等の広報媒体を活用して、繰り返し広報を実施していきたい。

また、大規模災害の発生に際して「避難所の場所の確認」以外は、日ごろから準備している人の割合が低く、特に若年層でその結果が顕著に見られた。この点についても今後の防災指導に活かしていきたい。

近隣との関係が希薄になっている現代社会において、「命を守る防災意識」の普及を図るため、「自分の命は自分で守る」という「自助」の大切さや、「自分の地域から犠牲者を出さない」という地域のつながりによる「共助」の重要性をより一層伝えていく必要がある。

### 【火災について】

本市において、近年火災発生件数は減少傾向にあるが、火災による死者数は増加傾向にあり、前述したとおり特に高齢者の死者数が多く、約6割を占める。アンケート結果からは、自宅で火災が発生し煙が充満し始めているときまず取る行動は、「すぐに逃げる」が最も多かったものの、70歳以上の約6割は、逃げるよりもまず初期消火を試みるという結果となった。そこには「自分に限っては大丈夫」「周りに迷惑をかけたくない」等様々な心理状態が考えられるが、他の年代に比べ避難行動に時間を要する割合が高い年代であるからこそ、「自分の命を守る＝すぐに逃げる」行動を取る必要がある。

今後も、火災の早期発見に有効な住宅用火災警報器の設置促進を進めるとともに、高齢者に対する防火指導をさらに充実させていきたい。

### 【救急について】

本市では、平成6年から積極的に応急手当普及啓発活動を行い、これまでに市内人口の約6割にあたる市民が応急手当講習を受講しており、政令市ではトップの受講率となっている。アンケート結果からも身の回りで急病人やけが人が発生した場合、6割以上の人が何らかの形で応急手当を実施するという結果となった。応急手当講習を受講したことがない約4割の人もそのほとんどが関心を持っており、今後も受講しやすい環境・方法について検討が必要である。

一方で、受講したことがある人の約半数は1回の受講にとどまっており、定期的な受講についても継続して指導していきたい。

また、増加する救急需要対策については、今後もあらゆる機会を通じて救急車の適正利用を呼びかけていく中で、救急車要請以外の手段をわかりやすく市民に知らせる必要がある。

### 【消防行政について】

消防局が行っている様々な事業の認知度について、5割を超えたのは「消防出初式」（67.4%）のみであり、アンケートを取った他14事業については、5割を下回る認知度であった。意見の中には「選択肢の事業はほとんど伝わっていない」という意見もあり、あらゆる災害から市民の生命・身体・財産を守るためにも、それぞれの事業を進めていく中で市民へのPRを強化していく必要がある。

### 【まとめ】

今回のアンケートでは、消防に対する市民の意見や要望、消防局が行っている各種事業の認知度、今後どのように事業を進めていくことが市民にとって有益かつ効果的であるかを把握することができた。アンケート結果を参考に「災害などに強いまちづくり」を確実に進めるため、今後も同様のアンケートを実施することで市民のニーズを確認していくとともに、市の財政状況も鑑みながら、時代の流れを捉えた適切な消防行政の運営に活かしていきたい。

【市政モニターに関すること】

市民文化スポーツ局広聴課                      電話 582-2527

【アンケート内容に関すること】

消防局人事課                                      電話 582-3805